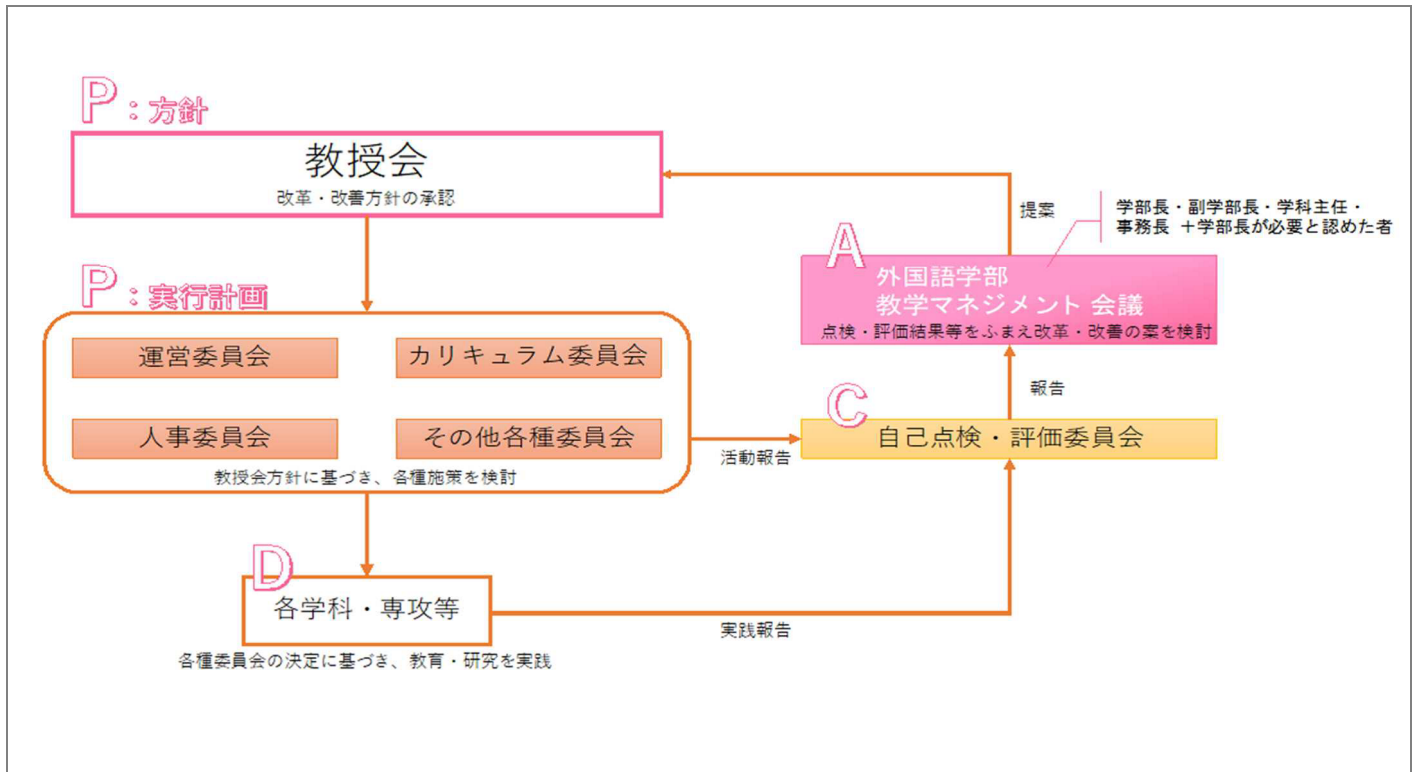


【外国語学部】 令和8年度 学部等教学マネジメント計画書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部等教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1.学部における教学マネジメントの組織体制



2.体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

①カリキュラムマップ

カリキュラムマップの見直しに先立ち、改組・改革の方向性を定める必要がある。

現行のカリキュラムは、主に、新たに開講した授業科目について、学修成果実感調査等から、カリキュラムマップで定める「身につく能力・資質」の妥当性を検証する必要がある。

②シラバス

カリキュラムマップと同様、改組・改革の方向性を定める必要がある。

開講中の授業科目のシラバスは、身につく能力・資質をふまえつつ、入学者の多様化、質的な変化に応じ、到達目標の精査を継続する必要がある。

また、オンデマンド授業の実施状況及びシラバスとの整合性を確認する。

③その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

特になし

今年度の取り組み

改組・改革の方向性を定め、これに基づき、具体的な検討に着手する。

ディプロマポリシーとの整合性を保ちつつ、新たな入学者の多様化、質的な変化に応じて、各授業の従来の到達目標の見直し等の対応を検討する。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題
各種調査結果等の活用について、関係する各委員会等が定例的に検証する体制・手法を確立することが望まれる。
今年度の取り組み
特に定例化すべき検証を定め、当該検証を担当すべき委員会と必要データ、検証方法等について協議する。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題	
新たな入学者の多様化、質的な変化により、履修者の単位取得に対する意欲(学習意欲)の低減が見られるとともに、従来の到達目標の達成が難しくなり始めており、これについての対応を検討する必要がある。	
今年度の取り組み	
単位修得状況あるいは成績分布の推移等により、学生の理解度を把握し、授業内容の改善を検討する。	
アセスメントプランの取り組み	
アセスメント科目名	検証方法（在学時）
【英語学科】 ・ Intensive English(A/B/C)IV ・ 英語研究演習IV/English Research SeminarIV 【ヨーロッパ言語学科】 ・ 専攻ドイツ語IV/専攻フランス語IV/専攻スペイン語IV/専攻イタリア語IV/専攻ロシア語IV ・ ヨーロッパ言語研究演習IV 【アジア言語学科】 ・ 専攻中国語IV/専攻韓国語IV/専攻インドネシア語IV ・ アジア言語研究演習IV	☐ 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック） ☐ 学習成果実感調査 ☐ GPA ☐ 在学生調査（在学生生活に関するアンケート）
	検証方法（卒業時）
	☐ 卒業研究・卒業論文 ☐ GPA ☐ 卒業時調査（4 年次生調査）
取り組み内容（「8つの資質・能力」の達成方法など）	
特に、専攻語の授業及び研究演習の成績データから、卒業時の資質・能力の修得及び達成状況を検証する。	
その他	

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。